住民との交流プログラムへの参加が若者の意識や心の状態に与えうる効果について

~NPO法人SETによる岩手県3自治体での活動のアンケート調査報告~

三井 俊介(NPO 法人SET/宮城大学大学院事業構想学研究科博士前期課程修了)

川西 諭 (上智大学経済学部経済学科教授)

廣瀨 太陽(NPO 法人SET)







目次



- 1. 実践団体の紹介
- 2. 調査の背景
- 3. Change Makers Study Programについて
- 4. 岩手町と僕らの未来開拓プロジェクトについて
- 5. プログラム参加者へのアンケート調査





1.実践団体の紹介

1.1 設立背景



2011/3/11 東日本大震災発生



2011/3/13 復興支援団体SET設立 「今できることをやる」



2011/4/6 陸前高田市広田町 という町との出会い



2013/6/18 人口減少する現実に対する 課題解決のためにNPO法人化 本格的に事業展開



「50年後、この町は無くなってしまうかもしれない」 という地元の人の言葉



1.2 団体概要



運 営 | 154名(広田町・岩手町在住者 25名 都会在住大学生・社会人 129人) 活動拠点 | 陸前高田市(特に広田町)、岩手町、葛巻町、雫石町、東京 雇用 | 正規雇用 14名、非正規雇用 8名 理事 | 8名(内4名は会社経営者) 経常収益 | 4500万円(事業収益 1000万円 寄付・会費収入 1300万円、 助成金収入 2600万円 その他 600万円)



1.3 事業内容





【交流部】

多地域、多世代の人材交流を通して、気づきや学び、行動変容を醸成する。町のファンを増やし続ける。

関係人口創出事業(CMSP)/地域人材育成(行政職員研修、企業研修)/民泊修学旅行誘致

【暮らし部】

人口減少社会への価値観のシフト、暮らしの探求・ 実践。環境へのアプローチ。

Change Makers 'College(4ヶ月間の成人学校、日本版フォルケホイスコーレ)/コミュニティビジネス

【研究部】

新しい人、町、社会のあり方の研究・提言。

社会インパクト評価/研究プラットフォーム形成

1.4 主な活動実績



【活動実績】

- ・人口3000人の町で800名近くの町民と一緒に活動
- ・毎年300人の若者が1週間以上活動する仕組みを形成
- ・移住者は40名を超え、毎年増え続けるようになった
- ・4年間で岩手県最大規模の民泊修学旅行受け入れ地域になった
- ・「人間成長(well-being)」の学校作りにおいて日本で唯一、デンマークの教育機関と本格的な連携確立
- ・研究部を設立し、アカデミックボードとして大学教授等14名にご参画いただいている
- ・岩手県5自治体で事業を推進している

【受賞歴】

- ・2020年 東北農政局「ディスカバー農山漁村の宝」ビジネス部門入賞
- ・2020年 第1回学生地域づくり交流大賞 最優秀賞受賞
- ・2019年 令和元年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣総理大臣賞受賞
- ・2018年 日本マニフェスト大賞シティズンシップ推進賞最優秀賞受賞
- ・2018年 復興庁主催新しい東北復興創生懸賞受賞
- •2018年 第7回「東北未来賞」受賞
- •2018年 復興大臣感謝状受賞

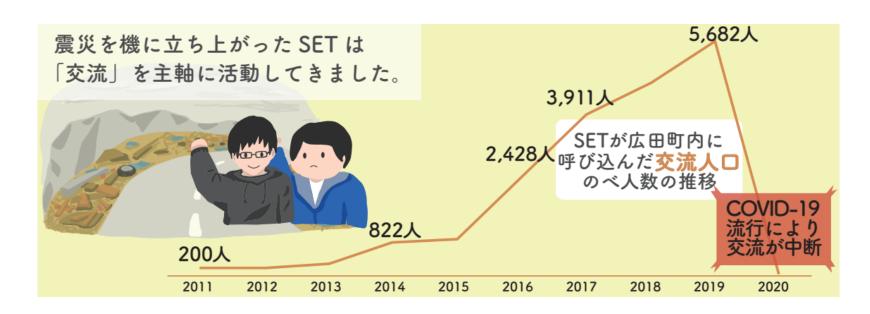




2.調査の背景

2 本調査の背景





交流事業の存続をはかるのと同時に、交流事業が若者と地域住民にどのような影響や価値があるのかについて調査を開始(2020年)。

本調査の目的は、SETが運営している「Change Maker Study Program」と「岩手町と僕らの未来開拓プロジェクト」の2つの交流事業に参加した大学生が、交流事業に参加することで意識や心の状態にどのような効果を受けるか。



3. Change Maker Study Programについて

3.1 概要



【課題】

人口減少 地域のために活動する人が少 ない



【活動】

地域住民とともに地域のために活動する大学生を地域外から呼び込み、交流の場をつくる



【短期的効果】

地域内に取組や行事が増える

【長期的効果】

地域愛着・貢献意欲の向上 町の担い手/移住者の増加

CMSPの半年間のスケジュール

夏季CMSP (毎年4月~9月)

 4月
 5月
 6月
 7月

 スタッフ
 1週間のプログラム
 参加者募集期間

 毎月1回、週末に1泊2日で活動地域へ現地入り
 地域へ現地入り

8月 9月

1週間のプログラム 準備・実施

(※スタッフは半年間での べ1ヶ月ほど活動地域に滞在 する)



スタッフ・参加 者のうち約3割 が春期CMSP (10月~3月) スタッフになる

3.2 2021年度夏季CMSPの活動



2021年度夏季CMSPは、オンラインを活用しつつ、緊急事態宣言の状況等を考慮しつつ活動地域への現地入りを実施

広田/小友町チーム

・小友町の冊子づくり 地域住民の話を聞き、小 友町の魅力や求められ ること、震災についてな ど学んだことを自分たち なりに考え、形に残す



オンラインによる地域住民との 交流の様子

矢作町チーム

- ・伝統芸能を伝えるため のパンフレット作り 矢作小学校とオンラインで 繋いで生出神楽について 話す
- ・生出地区への提案書作成

地域住民から聞いた話を もとに、大学生が思う矢作 町の良さを伝える

ポスター作成生出地区の魅力を伝えるポスターを作成

葛巻町チーム

・葛巻町のロゴ作成 交流を通して感じた葛巻 の雰囲気や大学生が描 いた理想の町を表現する ことで、地域住民の心の 中に「なにか挑戦してみた い」と思うようなプレゼンを







4.岩手町と僕らの未来開拓プロジェクトについて

4.1 概要



【課題】

若い世代が地元を知らないま ま町外に流出

地域に住む中高生の自己決定力・自己肯定感が低い



【活動】

高校生が自分の「やりたい」を 詰め込んだマイプロジェクトを 企画・実行。その伴走支援とし て地域内外の大学生や地域 内の大人が関わる



【短期的効果】

高校生のまちづくりに関わるモ チベーションアップ

【長期的効果】 将来的なUターン者

(1)「だべり場」

高校生が年上の大学生などの話を聞いて、自分の望む将来像を描いたり、町で実際にアクションをしたりする機会を創出する場。年間3度実施している。

(2)「3Daysプログラム」

3日間で自分がやりたいと思ったことをマイプロジェクトにする期間。8月に実施している。

(3)「学びの発表会」

中高生が自分のプロジェクトを地域住民が集まった場で発表する機会(2021年は約50人の地域住民が集まった)。 12月に実施している。

4.2 2021年度の活動



町で唯一の高校である沼宮内高校の高校生10人のマイプロ伴走支援を実施

高校生10人のマイプロテーマ

テーマ

「自転車巡りの旅in岩手町」 「遊びから運動の楽しさを知ろう」 「農業と機械とは」 「エドワードさんと一緒に縄文時代を知ってもらおう」 「本の配置の工夫」 「マイリサーチfrom介護」 「車がなくなれば今の日本はどうなるのか」 「音楽であふれる町に」 「岩手町の吹奏楽の可能性」 「ライブの魅力とは」









5.プログラム参加者へのアンケート調査

SETプログラム参加者へのアンケート調査

アンケート調査の概要

対象:2021年度実施オンライン交流プログラムに参加した大学生52名 うち、28名はSET所属スタッフ

質問内容:オンライン交流プログラム参加者の

- ・プログラム内の人間関係
- ・心と体の状態、考え方などについて

実施タイミング:プログラム参加の前と後の2回実施

実施方法: Googleフォームを使った匿名アンケート

追跡調査のために参加プログラム名、性別、生年、携帯電話の下4桁を回答

アンケートの調査項目は、

- (1)コミュニティキャピタルの3因子、
- (2)心と体の健康状態、
- (3)団体活動と関係する資質とマインドセット

それぞれについて説明します

(1)コミュニティキャピタルの3因子

コミュニティ感覚(Sense of community: Sarason 1974)に基づいた 集団内のソーシャルキャピタル(社会関係資本)の尺度



理念共感と 貢献意欲

- ・この団体に貢献したい
- ・この団体が目指していることを、自分も一緒に担っていきたい
- この団体に所属していることを誇りに思う
- ・この団体の活動理念に共感している



自己有用感

- 自分はこの団体に欠かせない存在だ
- 自分はこの団体の中で重要な役割を任されている
- ・自分がこの団体に役立っていると思う
- ・この団体は、私のことを必要としてくれている



居心地の良さ

- ・この団体は、居心地がよい
- ・この団体の仲間といると落ち着く
- ・この団体のメンバーと一緒に活動することが楽しい
- ・この団体のメンバーとの関係は良好だと思う

(2) 心と体の健康状態

抑うつ傾向 点数が高いほど抑うつ傾向が高い

孤独感 点数が高いほど孤独を感じている

自己肯定感 点数が高いほど自己肯定感が高い

主観的健康感 点数が高いほど健康感が高い

(3) 団体活動に関係する資質とマインドセット

多様性受容 意見や考え方が異なる他者を受け容れられると感じているほど点

が高い

レジリエンス 困難に直面しても乗り越えられると感じているほど点が高い

社会的信頼 他者を信頼している人ほど点が高い

ポジティブサム思考 相互に協力することで豊かになれると感じているほど点が高い

成長思考自分の能力や特性は努力次第で向上できると考えているほど点が

高い

自己効力感 未来は自分の力で変えられると思っているほど点が高い

人間関係思考 他人との関わりが大事だと思っているほど点が高い

調査結果 1. 記述統計

			プログラル	、前(n=52)			プログラム	平均値の差の検定			
変数名	範囲	最低値	最高値	平均値	標準偏差	最低値	最高値	平均値	標準偏差	平均値の差※	判定
第一因子:理念共感と貢献意欲	1~10	6.75	10.00	9.02	1.06	4.25	10.00	8.94	1.28	-0.08(0.64)	
第二因子:自己有用感	1~10	1.25	10.00	5.92	1.80	3.00	10.00	7.66	1.70	1.74(0)	***
第三因子:居心地の良さ	1~10	4.33	10.00	7.85	1.67	3.00	10.00	8.77	1.58	0.92(0.01)	***
抑うつ傾向	0~10	0.00	7.78	2.84	1.86	0.00	9.44	2.02	1.82	-0.82(0.04)	**
孤独感	0~10	0.00	6.00	1.57	1.32	0.00	6.00	1.18	1.26	-0.39(0.15)	
自己肯定感	0~10	1.67	10.00	5.77	1.89	0.83	10.00	6.31	1.75	0.54(0.18)	
主観的健康感	0~4	1.00	4.00	2.90	0.88	1.00	4.00	3.10	0.98	0.2(0.34)	
多様性受容	0~10	3.33	10.00	7.12	1.41	4.17	10.00	7.07	1.63	-0.04(0.68)	
レジリエンス	0~10	3.33	10.00	6.49	1.45	4.17	10.00	6.92	1.49	0.43(0.23)	
社会的信頼	0~10	3.33	10.00	6.58	1.46	2.22	10.00	7.23	1.65	0.65(0.05)	**
ポジティブサム思考	0~10	4.17	10.00	6.38	1.51	4.17	9.17	6.45	1.34	0.07(0.95)	
成長思考	0~10	3.33	10.00	6.79	1.54	3.33	10.00	7.04	1.68	0.25(0.57)	
自己効力感	0~10	3.33	10.00	8.24	1.70	6.67	10.00	8.57	1.48	0.33(0.39)	
人間関係思考	0~10	6.67	10.00	9.81	0.78	0.00	10.00	9.52	1.67	-0.28(0.28)	

※平均値の差のかっこ内の数字はP値 *:P<0.1 **:P<0.05 ***:P<0.01

調査結果 2. 変数間の相関関係 比較対象として、予備調査(サンプル1165)の結果から見られた相関係数表

予備調査 N=1165	第一因子	第二因子	第三因	抑うつ 傾向	孤独感	自己肯定感	主観的健康感	多様性	レジリエンス	社会的 信頼	ポジティ ブサム 思考	成長思考	自己効力感	人間関 係思考
第一因子	1.00	0.54	0.71	-0.17	-0.22	0.14	0.15	0.29	0.20	0.21	0.27	0.22	0.31	0.28
第二因子	0.54	1.00	0.56	-0.22	-0.21	0.28	0.14	0.17	0.23	0.20	0.17	0.16	0.20	0.12
第三因子	0.71	0.56	1.00	-0.20	-0.25	0.21	0.14	0.24	0.19	0.22	0.18	0.20	0.28	0.28
抑うつ傾向	-0.17	-0.22	-0.20	1.00	0.59	-0.51	-0.43	-0.24	-0.42	-0.27	-0.18	-0.21	-0.25	-0.13
孤独感	-0.22	-0.21	-0.25	0.59	1.00	-0.47	-0.30	-0.23	-0.33	-0.32	-0.28	-0.24	-0.27	-0.25
自己肯定感	0.14	0.28	0.21	-0.51	-0.47	1.00	0.32	0.31	0.56	0.39	0.28	0.32	0.37	0.22
主観的健康感	0.15	0.14	0.14	-0.43	-0.30	0.32	1.00	0.20	0.31	0.21	0.07	0.18	0.24	0.09
多様性受容	0.29	0.17	0.24	-0.24	-0.23	0.31	0.20	1.00	0.47	0.31	0.17	0.34	0.32	0.23
レジリエンス	0.20	0.23	0.19	-0.42	-0.33	0.56	0.31	0.47	1.00	0.32	0.24	0.37	0.45	0.22
社会的信頼	0.21	0.20	0.22	-0.27	-0.32	0.39	0.21	0.31	0.32	1.00	0.33	0.26	0.26	0.21
ポジティブサム思考	0.27	0.17	0.18	-0.18	-0.28	0.28	0.07	0.17	0.24	0.33	1.00	0.30	0.34	0.28
成長思考	0.22	0.16	0.20	-0.21	-0.24	0.32	0.18	0.34	0.37	0.26	0.30	1.00	0.45	0.30
自己効力感	0.31	0.20	0.28	-0.25	-0.27	0.37	0.24	0.32	0.45	0.26	0.34	0.45	1.00	0.36
人間関係思考	0.28	0.12	0.28	-0.13	-0.25	0.22	0.09	0.23	0.22	0.21	0.28	0.30	0.36	1.00

調査結果 2. 変数間の相関関係

プログラム参加前調査における変数間の相関関係

BEFORE

プログラム参加前	第一因	第二因	第三因	抑うつ	孤独感	自己肯	主観的健	多様性	レジリ	社会的	ポジティ ブサム	成長思	自己効	人間関
N=52	子	子	子	傾向		定感	康感	受容	エンス	信頼	思考	考	力感	係思考
第一因子	1.00	0.27	0.44	-0.30	-0.03	0.09	-0.04	0.24	0.19	-0.01	0.23	0.23	0.39	0.34
第二因子	0.27	1.00	0.32	-0.23	0.03	0.34	0.01	0.05	0.37	0.04	-0.14	-0.05	0.09	-0.01
第三因子	0.44	0.32	1.00	-0.21	-0.13	-0.09	0.08	0.13	0.17	0.11	0.00	0.40	0.28	0.16
抑うつ傾向	-0.30	-0.23	-0.21	1.00	0.53	-0.52	-0.54	-0.09	-0.30	-0.16	-0.28	-0.23	-0.24	-0.36
孤独感	-0.03	0.03	-0.13	0.53	1.00	-0.35	-0.29	-0.22	-0.08	-0.17	-0.33	-0.09	-0.08	0.00
自己肯定感	0.09	0.34	-0.09	-0.52	-0.35	1.00	0.32	0.15	0.52	0.00	0.16	0.09	0.11	0.14
主観的健康感	-0.04	0.01	0.08	-0.54	-0.29	0.32	1.00	0.17	0.12	0.23	0.27	0.20	0.24	0.26
多様性受容	0.24	0.05	0.13	-0.09	-0.22	0.15	0.17	1.00	0.25	0.50	0.38	0.25	0.18	0.03
レジリエンス	0.19	0.37	0.17	-0.30	-0.08	0.52	0.12	0.25	1.00	-0.04	0.09	0.27	0.19	0.07
社会的信頼	-0.01	0.04	0.11	-0.16	-0.17	0.00	0.23	0.50	-0.04	1.00	0.39	0.37	0.08	0.05
ポジティブサム思考	0.23	-0.14	0.00	-0.28	-0.33	0.16	0.27	0.38	0.09	0.39	1.00	0.29	0.21	0.09
成長思考	0.23	-0.05	0.40	-0.23	-0.09	0.09	0.20	0.25	0.27	0.37	0.29	1.00	0.57	0.11
自己効力感	0.39	0.09	0.28	-0.24	-0.08	0.11	0.24	0.18	0.19	0.08	0.21	0.57	1.00	0.23
人間関係思考	0.34	-0.01	0.16	-0.36	0.00	0.14	0.26	0.03	0.07	0.05	0.09	0.11	0.23	1.00

調査結果 2. 変数間の相関関係

プログラム参加後調査における変数間の相関関係



プログラム参加後	第一因	第二因	第三因	抑うつ	孤独感	自己肯	主観的健	多様性	レジリ	社会的	ポジティ プサム	成長思	自己効	人間関
N=49	子	子	子	傾向		定感	康感	受容	エンス	信頼	思考	考	力感	係思考
第一因子	1.00	0.66	0.82	-0.16	-0.01	0.13	0.10	0.49	0.43	0.08	-0.02	0.29	0.40	0.29
第二因子	0.66	1.00	0.73	-0.18	0.09	0.17	0.16	0.42	0.33	0.11	0.01	0.08	0.37	0.11
第三因子	0.82	0.73	1.00	-0.14	0.00	0.21	0.10	0.48	0.45	0.10	-0.04	0.29	0.46	0.25
抑うつ傾向	-0.16	-0.18	-0.14	1.00	0.64	-0.54	-0.69	-0.42	-0.30	-0.36	-0.12	-0.23	-0.40	-0.29
孤独感	-0.01	0.09	0.00	0.64	1.00	-0.52	-0.32	-0.34	-0.28	-0.01	-0.15	-0.23	-0.36	-0.02
自己肯定感	0.13	0.17	0.21	-0.54	-0.52	1.00	0.37	0.43	0.39	0.18	0.00	0.09	0.17	0.04
主観的健康感	0.10	0.16	0.10	-0.69	-0.32	0.37	1.00	0.34	0.29	0.22	0.00	0.31	0.46	0.24
多様性受容	0.49	0.42	0.48	-0.42	-0.34	0.43	0.34	1.00	0.53	0.33	0.24	0.40	0.50	0.20
レジリエンス	0.43	0.33	0.45	-0.30	-0.28	0.39	0.29	0.53	1.00	-0.08	0.07	0.31	0.49	0.19
社会的信頼	0.08	0.11	0.10	-0.36	-0.01	0.18	0.22	0.33	-0.08	1.00	0.37	0.25	0.04	0.10
ポジティブサム思考	-0.02	0.01	-0.04	-0.12	-0.15	0.00	0.00	0.24	0.07	0.37	1.00	0.33	0.19	0.13
成長思考	0.29	0.08	0.29	-0.23	-0.23	0.09	0.31	0.40	0.31	0.25	0.33	1.00	0.54	0.35
自己効力感	0.40	0.37	0.46	-0.40	-0.36	0.17	0.46	0.50	0.49	0.04	0.19	0.54	1.00	0.33
人間関係思考	0.29	0.11	0.25	-0.29	-0.02	0.04	0.24	0.20	0.19	0.10	0.13	0.35	0.33	1.00

調査結果 2. 変数間の相関関係

要点

- ・コミュニティキャピタル3因子が高いほど心と体の健康感が高い
- 団体活動に関係する資質とマインドセットとも相関関係がある

予備調査との比較

- 全体的な相関の傾向は本調査でも概ね同じである。
- 相関係数の絶対値が小さく、符号が逆転していたりするものもある。
- → サンプル数が少なく誤差の影響が強く出ていることが原因と考えられる

プログラム前後の比較

- -プログラム参加後3因子間の相関が高まっている。
- → 参加後、他の参加者と良い関係性を構築できた人と、そうでない人の違いが生まれ、変数間の相関が強く表れた結果

調査結果 3. 追跡データの分析

参加プログラム、性別、生年、そして携帯電話の下4桁の数字を頼りに回答者を特定し、

回答の変化を分析

四百の久してカツ					i -				-				
		全	e回答者(n	=48)		一般	参加者のみ	د (n=2	29)	7	スタッフのみ	(n=19))
変数名	範囲	平均	標準偏差	tŒ	Ī	平均	標準偏差	t值	1	平均	標準偏差	t値	Ī
第一因子:理念共感と貢献意欲	-9~9	-0.13	1.29	-0.70		-0.33	1.48	-1.19		0.1	7 0.89	0.84	
第二因子:自己有用感	-9~9	1.72	1.68	7.08	***	1.63	1.63	5.38	***	1.80	5 1.79	4.51	***
第三因子:居心地の良さ	-9~9	0.87	1.57	3.83	***	0.52	1.49	1.86	本	1.40	1.57	3.90	***
抑うつ傾向	-10~10	-0.58	2.02	-1.99	*	-0.54	2.12	-1.36		-0.6	1.91	-1.47	
孤独感	-10~10	-0.31	1.22	-1.77	*	-0.38	1.37	-1.49		-0.2	L 0.97	-0.95	
自己肯定感	-10~10	0.45	1.47	2.13	**	0.32	1.50	1.13		0.6	5 1.43	2.00	*
主観的健康感	-4~4	0.11	0.81	0.90		0.07	0.86	0.44		0.10	0.76	0.90	
多様性受容	-10~10	-0.07	1.28	-0.37		-0.14	1.30	-0.60		0.0	1.29	0.15	
レジリエンス	-10~10	0.36	1.35	1.87	*	0.29	1.27	1.22		0.48	3 1.50	1.40	
社会的信頼	-10~10	0.76	1.22	4.35	***	0.57	1.25	2.48	**	1.0	1.14	4.02	***
ポジティブサム思考	-10~10	0.05	1.29	0.28		0.14	1.37	0.56		-0.0	1.18	-0.33	
成長思考	-10~10	0.21	1.37	1.05		0.20	1.29	0.84		0.2	2 1.52	0.63	
自己効力感	-10~10	0.24	1.72	0.98		0.00	1.67	0.00		0.6	1.78	1.51	
人間関係思考	-10~10	-0.42	1.63	-1.77	*	-0.57	2.01	-1.54		-0.18	0.76	-1.00	
	-					-		* :	P<0.	1 **	P<0.05 *	** : P<	:0.01

調査結果 3. 追跡データの分析

参加プログラム、性別、生年、そして携帯電話の下4桁の数字を頼りに回答者を特定し、 回答の変化を分析

有意な変化

- コミュニティキャピタル:プログラム内での自己有用感と居心地の良さが高まった。
- -プログラム参加によって心の健康状態が高まった。
- プログラム参加によって社会的信頼が高まった。

意外な結果

- 人間関係思考がマイナスの方向に変化
- → 1名の回答が10点から0点に変わったことなどが原因? 反転項目だったことが回答ミスにつながった可能性

追跡データの分析 調査結果 3. 変数の変化間の相関関係

1.00

0.45

0.34

0.03

0.31

-0.09

-0.30

0.22

-0.02

-0.03

0.14

0.05

0.24

0.25

0.45

1.00

0.39

-0.14

0.00

0.35

-0.17

0.25

0.21

0.12

0.01

-0.05

0.09

0.02

0.34

0.39

1.00

0.07

-0.05

-0.06

0.01

0.02

0.02

0.18

0.01

0.07

0.09

-0.05

0.03

-0.14

0.07

1.00

0.36

-0.39

-0.59

-0.15

-0.49

-0.43

0.00

-0.33

-0.35

-0.25

第一因子

第二因子

第三因子

孤独感

抑うつ傾向

自己肯定感

多様性受容

社会的信頼

成長思考

自己効力感

人間関係思考

主観的健康感

レジリエンス

ポジティブサム思考

各変数のプログ			の変化	とを新	しい	変数と	して	相関係	系数を	調べ	ると・		
点数変化間の相関	第一因	第二因	第三因	抑うつ		自自	主観的健	多様性	べく	社会的	ポジティ	成長思	自己効

合変数のプログ	ノフム	削饭	グダル	と初	しい	文奴と		们关门	や奴と	一词	ବ ८ '		
点数変化間の相関 (N=48)	第一因	第二因	第三因	抑うつ	2011 344 同艾	自己肯	主観的健	多様性	レジリ	社会的	ポジティ	成長思	自己効
(N=48)	子	子	子	傾向	1月11年代次	定感	康感	受容	エンス	信頼	思考	考	力感

0.31

0.00

-0.05

0.36

-0.07

-0.28

-0.22

-0.27

-0.16

-0.01

-0.31

-0.15

0.02

-0.09

0.35

-0.06

-0.39

-0.07

1.00

0.07

0.17

0.55

0.08

-0.07

0.04

0.19

-0.09

-0.30

-0.17

0.01

-0.59

-0.28

0.07

1.00

-0.04

0.23

0.30

-0.07

0.19

0.29

0.09

0.22

0.25

0.02

-0.15

-0.22

0.17

-0.04

1.00

0.22

0.15

-0.08

0.18

0.13

-0.01

-0.02

0.21

0.02

-0.49

-0.27

0.55

0.23

0.22

1.00

0.07

-0.13

0.13

0.41

0.07

-0.03

0.12

0.18

-0.43

-0.16

0.08

0.30

0.15

0.07

1.00

0.16

0.16

0.02

-0.07

0.14

0.01

0.01

0.00

-0.01

-0.07

-0.07

-0.08

-0.13

0.16

1.00

0.26

0.09

0.01

0.05

-0.05

0.07

-0.33

-0.31

0.04

0.19

0.18

0.13

0.16

0.26

1.00

0.24

0.25

人間関

係思考

0.24

0.09

0.09

-0.35

-0.15

0.19

0.29

0.13

0.41

0.02

0.09

0.24

1.00

0.16

0.25

0.02

-0.05

-0.25

0.02

-0.09

0.09

-0.01

0.07

-0.07

0.01

0.25

0.16

1.00

- 調査結果 3. 追跡データの分析変数の変化間の相関関係
- 各変数のプログラム前後の変化を新しい変数として相関係数を調べると・・・
- 値はそれほど大きくないものの、符号は変数そのものの相関係数と概ね同じ。
- → 変数間の連動がある可能性を示唆
- •3因子には相互に高めあう傾向がある。
- •「自己有用感」の変化は自己肯定感の変化と有意水準5%で有意なプラスの相関がある。
- → チームから必要とされることで、自信がついて自己肯定感が高まることが期待される。
- •自己肯定感が改善された人は抑うつ傾向が低下し、レジリエンスが改善する傾向が見られる。
- → プログラムの中で困難な課題を乗り越えた経験が参加者の自信につながっている可能性
- ・社会的信頼が高まった人は、コミュニティキャピタルの自己有用感、居心地の良さも改善している。
- → プログラム参加者及びスタッフと良い関係性ができたことで、他者への信頼感が高まった可能性

ご清聴ありがとうございました!



